

# 地域活性化を目指す厚田区 これまでの動き

①	平成17年10月	◇ 平成の大合併 1市2村(旧石狩市、旧厚田村、旧浜益村)	◇ 地域自治区(厚田区・浜益区)選択 ↓ 「厚田区地域協議会」「厚田支所」設置	◇ 住民自治の推進・協働の取り組み ↓ 地域振興団体発足(H18~H24 7団体誕生)	地域の中に自分を中心となり 地域を引っ張っていく「トリガー的人材」がいた	合併→地域自治区設置→地域振興団体発足 特色あるまちづくり 地域づくり →住民自治の推進 →区民と市の「協働」取り組みが進められ →7つの地域振興団体が誕生
②	平成24年度	◇ 「地域おこし協力隊活用検討委員会」設置 ↓ H25年10月導入決定(厚田・浜益各2名)	◇ 地域おこし協力隊採用経過 ※赤字はOB・OG H26年4月 2名(小島・森田(旧姓:沼倉)) H29年5月 2名(今野・野呂) H30年5月 1名(江崎) H31年5月 1名(吉川) H31年7月 1名(飯塚) R02年5月 1名(秋葉) R03年7月 1名(奥本)	◇ 外部の視点で地域活性化を目指す ↓ 8年間で9人導入(退任後は地元定住:4/7人)	外部人材:地域おこし協力隊	外部の視点を生かして地域活性化を図ることができないか →その必要性の検討が始まる →導入決定 これまで9人採用(現役②区内③市内①)6/9在住
③	平成25年09月	◇ 厚田区が目指す将来の姿(厚田魅力の島) ↓ 「近説遠来」(地域協議会第4期委員総括)	◇ 「近説遠来」中国 孔子の論語 ↓ 「住んでよし 訪れてよし」	◇ 「近説遠来」具現化に向けた取り組み開始 ↓ 「厚田カンパニー構想の実現」	①「複合施設建設構想策定委員会」⇒道の駅 ⇒『遠来の実現』 ②「アンケート会議」⇒『近説のヒント(地域意識の確認)』 ③「地域交通サービス検討委員会」⇒『近説の具現化(第1弾)』	厚田区地域協議会での議論を経て 厚田区が目指す将来の姿「近説遠来」と位置づける
④	11月	◇ 「複合施設建設構想策定委員会」設置 ↓ 策定委員会12回、分科会3回開催(18名→28名)	◇ 重点「道の駅」選出(平成27年1月)	◇ 平成30年4月27日 道の駅石狩「あいろんど厚田」開業	○1年目(2018年) 612,702人 130,000,000円 ○2年目(2019年) 434,086人 99,000,000円 ○3年目(2020年) 335,801人 84,700,000円 ○4年目(2021年) 350,070人 90,520,000円	資料室リニューール構想策定協議会の取り組みから →複合施設の建設を目指し検討委員会発足 →道の駅建設へと導く
⑤	平成29年06月	◇ ふるさと創生プロジェクト 「厚田カンパニー構想」策定 ↓ ○住民同士が共に支え合う街 ○必要とされる拠点づくり	○できる事をできる人ができる時に・・・ ○共に支え合う仕組みの確立 ○人が人を呼ぶ魅力の街 ○近説遠来の実現	◇ 支え合いの街を地域は望んでいるか? ↓ 「アンケート調査の実施」 ○住民意識(郷土愛) ○日常生活の問題点 ○防災意識 ○地域交通の考え方 ○地域の係り	◇ 地域活性化のカギとなるカンパニー構想 ↓ アンケート調査最終報告書(P69~参照) 『IV.分析結果を踏まえた提言』	近説遠来の具現化に向け 住民同士が支え合う街「厚田カンパニー構想」を策定
⑥	11月	◇ アンケート会議 ↓ ○H30年1~2月 アンケート調査実施 ○H31年3月 最終報告書	◇ 調査対象者 高校生(15歳)以上の1,500人 ・回収率 約90%(1,346人) ↓ ○生活が不便 ○公共交通の問題 ○少子高齢化・人口減少	◇ 「意見する人」「支援する人」 「アイデアを出す人」は大勢いるが… ↓ 自分を中心となって地域を引っ張っていく 「トリガー的人材」がいない	◇ アンケート調査(最終報告書P70、P78) ↓ ○地域を革新的にけん引する人材(トリガー的人材)を探すことは極めて難しい ○少子高齢化・過疎化が進むと地域のために汗を流してくれる人材確保が難しい	支え合いの街を地域は本当に望んでいるのか 確認も含め →「アンケート調査」を実施 ⇒大きな課題は3つ ⇒検討会としての提言→トリガー(けん引者)がいない
⑦	平成31年04月	◇ 地域交通サービス検討委員会 設置 ↓ ○H31年4~11月 準備会 ○R01年12月~委員会	◇ 聞き取り調査(R02年2月:需要度調査) ↓ ○利用者を見極める(需要度5→4.7世帯)	◇ 既存交通を活かす取り組み(共存・利用促進) ↓ ○ライサゴ ○中央バス ○ダイコク交通	①日常生活の不便さの解消 ②安心の医療・福祉 ③子育て環境の充実 ④移住・定住 →4つの共通する社会基盤『地域交通の充実』 ◇ 目標 『便利な田舎の実現』 ↓ ○R03年4月~ 試行運行 ○R04年4月~ 本格運行	アンケート調査結果を踏まえ ⇒①地域交通サービス検討委員会発足
⑧	令和02年08月	◇ 集落支援員制度検討委員会設置(R2年8月) ↓ ○R02年07月 準備会設置 ○R02年08月~委員会	◇ 内部の実情に詳しい人材 ↓ ○「トリガー的人材」の登用	◇ 検討委員会(R2年8月~) ↓ 「必要性・導入の可否を検討」 ○先進地視察 ○地域が求める支援メニュー抽出	内部人材:集落支援員(トリガー)	⇒②地域をけん引するトリガー(けん引車)として 「集落支援員」を配置できないか 検討会発足 →R4年4月より導入決定